

【第6回】4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有
サイバーシンポジウム 2020年5月1日（金）

新型コロナウイルス 流行下の図書館運営 国立大学の取り組みから

江川 和子
東京大学附属図書館事務部長
(国立大学図書館協会事務局)

国立大学図書館協会 会員館の休館状況

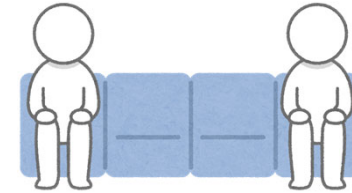
- 国立大学図書館協会
 - 会員：国立大学86、放送大学、大学共同利用機関5 = 計92館
 - 会長館、事務局：東京大学附属図書館
- 休館状況（メーリングリスト、ホームページによる）

休館	開館
77	15

- 休館中でも学内者向けに一部サービスを継続している館は多い
- 休館期間は「連休明けまで」多数
 - 「6月初め」「9月末」の館もあり
- 開館：感染者の少ない、特定警戒都道府県以外の地域の大学、または医科大学（医学図書館のみ開館という大学もあり）

開館を継続するための工夫

リアル施設・
資料の提供



- 開館時間の短縮
- 学外者の利用停止
- ラーニングコモンズ、グループ学習室、視聴覚ブース等の利用停止
- 館内での会話しながらの学習の禁止
- 閲覧座席の一部利用停止（椅子や机の間隔をあけて配置）
- 閲覧席の完全利用停止（資料を探したら速やかに退館）
- 貸出期間の延長、返却は常時利用可能な返却ポストへ
- 換気のため、窓・出入口の常時開放
- 入館時に備え付けのアルコール消毒液で手指の消毒
- マスク着用（義務）、手洗い・咳エチケットの励行
- 咳、発熱、倦怠感、嗅覚味覚障害の症状がある方の入館禁止
- カウンター業務の職員にマスク着用義務付け
- カウンターに飛沫感染防止のための防護設備を設置予定



休館中のサービス①



- 限定的な施設、機器の提供（例）
 - （ラーニングコモンズの限定的利用）PCは所持していて自宅でネット接続ができない学生のみです。本学の無線LANを利用して、履修登録及び、電子資料の学外利用登録の目的で利用することができます。
 - （ノートパソコンの当日貸出）本学学生のうち、自宅でのオンライン授業の受講が困難な方を対象に、ノートパソコンを当日貸出いたします。利用場所等については、職員の指示に従ってください。
- 所蔵資料の予約取置サービス
 - メールやウェブフォームで事前予約→カウンターで貸出
 - 貸出不可の資料はセルフコピー／複写物を提供
 - 授業準備等のため資料が必要な場合は個別相談



図書館職員も利用者も来館可能であることが前提

休館中のサービス②



- 所蔵資料または複写物の宅配サービス
- メールやウェブフォームで事前予約
 - 所蔵資料または複写物を希望する住所へ郵送
- 図書館間相互利用（ILL）で取り寄せた文献複写の転送サービスを行っている大学もある
- 複写料金、送料の負担は大学により異なる
- サービス対象者も大学により異なる
 - 「遠隔授業のためどうしても館内図書の利用が必要な教員」
 - 「学修・研究上、緊急に図書館所蔵の資料が必要な場合」
 - などに限定する大学もある

図書館職員が短時間でも出勤可能であることが前提

休館中のサービス③（オンライン）

- 特設サイトを開設
- 在宅で利用できるサービスや電子リソース、その利用方法
- 電子リソース（電子ジャーナル、電子ブック、データベース）は、国内外の出版社の支援により、期間限定で次々にアクセス拡大→最新情報を提供
- 遠隔授業に係わる著作権の情報
- 電子リソースの拡充（例）
- 新型コロナウイルス感染症の影響で直接来館サービスに制限が生じていることから、非来館サービス拡充の一環として、急遽、岩波新書等の電子版100冊を導入しました。
- 在学生の皆さまの自宅学習促進のため、電子ブックを59冊購入いたしました。
- 図書館が臨時休館中で本を借りることができない今、電子ブックの提供を拡充するため、図書館では期間限定で、Maruzen eBook Libraryの電子ブック試読サービスを、昨年度に引き続き実施することになりました。

休館中のサービス③（オンライン） 続

- 学修支援・読書促進
 - 推薦図書リスト（学外から電子ブックで読めるもの）
 - 過去の図書館セミナーのビデオを公開
 - 仮想展示
- 新入生ガイダンス・利用講習会の代替
 - ガイダンスビデオを公開
 - 出版社が提供するWebセミナーを紹介
- オンラインレファレンス
 - メールやウェブフォームによる質問に図書館職員が回答
（しかし冊子体資料の確認を要する場合は、図書館職員の在宅勤務が解除された後の対応となる）



【特設サイト】
オンライン学習、在宅研究・勤務で利用できる
オンラインサービスのご案内



4/7 日本語版
4/13 英語版
図書館twitter等で広報

東大のオンラインサービス

●電子リソース（2018年度実績）

電子ジャーナル	10,151タイトル	アグリゲータ系も含めると29,421 タイトル	全学共通経費
データベース	65件		
電子ブック	31,230タイトル	うち、約2,700タイトルがシラバス掲載図書	総合図書館・部局経費

- 認証GWサービス（教職員）、SSL-VPN Gatewayサービス（学生）
- E-journal & E-book Portal、ディスカバリーサービス「TREE」

the University of Tokyo
E-journal & E-book Portal 日本語 ▾

すべてのリソース | 電子ジャーナルのみ | **電子ブックのみ**

0-9 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z その他
 あ い う え お か き く け こ さ し す せ そ た ち つ て と な に ぬ ね の は ひ ふ へ ほ ま み む め も や ゆ よ ら
 り る れ ろ わ

次の全ての語を含む雑誌名・書名 ▾

-- 主題カテゴリを選んでください -- ▾

21 レコード 次の検索の結果： 次の全ての語を含む雑誌名・書名 "医療"

遺伝子と医療 (シリーズ生命倫理学 11) (4-621-08488-7, 978-4-621-08488-5), 玉井, 真理子; 松田, 純; 松原, 洋子.
丸善出版, 04/01/2013.

in [Maruzen eBook Library](#) 同時アクセス数1 (2020年7月31日まで 同時アクセス数50) via Off-Campus access service

医療・介護のための死生学入門 (4-13-012063-8, 978-4-13-012063-0), 清水 哲郎; 会田 薫子.
東京大学出版会, 08/29/2017.

in [Maruzen eBook Library](#) 同時アクセス数1 (2020年7月31日まで 同時アクセス数50) via Off-Campus access service

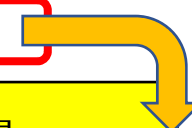
学生の声

現在図書館が全面閉館になっている影響で、学習やレポート課題に利用したい参考書や、演習書といった個人で揃えるには敷居の高い資料を自費で揃える必要があり、大変困っています。

提供されているオンラインサービスは学部学生の視点ではかなり貧弱で、正直ほとんど意味をなしていません。

〇〇大図書館は学生に郵送で貸し出しサービスを始めるそうです。このようなサービスは東大でも可能ですか？

→「原則すべての職員が在宅勤務を行う」期間（現状）は不可能



レベル	総合	研究活動	授業（講義・演習・実習）	学生の課外活動	学内会議	門の開閉
0	通常					
0.5	一部制限	感染拡大に最大限の配慮をして、研究活動を行うことができます。	感染拡大に最大限の配慮をして、対面授業、演習・実習を制限しつつ、オンライン講義を中心に授業を行います。	感染拡大に最大限の配慮をして、一部の課外活動を許可します。	感染拡大に最大限の配慮をして、対面会議を行います。オンライン参加を推奨します。	
1	制限-小	研究活動は続行できますが、感染拡大に最大限の配慮をしつつ、学生・研究員・研究スタッフ（研究室関係者）は現場での滞在時間を減らし、可能な場合は自宅で作業することを検討する必要があります。	オンライン講義のみ	全面禁止	対面会議は必要最小限とし、移せるものからオンライン会議に移行します。	学外者の学内立ち入りを制限します。
2	制限-中	現在進行中の実験・研究を継続するために必要最小限の研究室関係者のみの立ち入りが許可されます。立ち入る研究室関係者は現場での滞在時間を減らすとともに、それ以外の研究室関係者は自宅での作業となります。	オンライン講義のみ	全面禁止	オンライン会議のみ	原則、守衛のいる門のみ開き、入構には身分証の提示が必要です。
3	制限-大	以下の研究スタッフ（事情によっては大学院生・研究員も可）の研究室への立ち入りが許可されます。 1) 中止することにより大きな研究の損失を被ることになる、長期間にわたって継続している実験を遂行中の研究スタッフ 2) 進行中の実験を終了あるいは中断する業務に関わる研究スタッフ 3) 生物の世話、液体窒素の補充、冷凍庫修理など研究材料の維持 あるいはサーバーの維持のために一時的に入室する研究スタッフ	オンライン講義のみ	全面禁止	オンライン会議のみ	守衛のいる門のみ開き、入構には身分証の提示と入構記録が必要です。
4	活動の停止	大学機能の最低限の維持のために、専攻長など組織代表者の許可の下で、生物の世話、液体窒素の補充、冷凍庫修理、サーバー保持などを目的に、一時的に入室する研究スタッフのみの立ち入りが可能です。	オンライン講義のみ	全面禁止	オンライン会議のみ	緊急性の高い用務のみ入構を許可します。守衛のいる門のみ開き、入構には身分証の提示と入構記録が必要です。

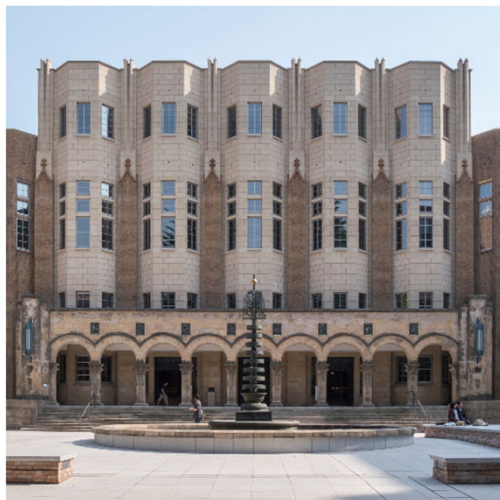
東京大学附属図書館の対応方針 3/31作成

		附属図書館事務部の事務体制	附属図書館のサービス	
0	通常			3/19
0.5	一部制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ通常とおりの勤務形態、必要に応じて在宅勤務を試行。 	(3/19告知) <ul style="list-style-type: none"> ・学者者（東京大学附属図書館または総合図書館の利用証・入館証をお持ちの方を除く）はご利用できません。 ・建物見学は一切お断りいたします。 ・別館ライブラリープラザのご利用について、以下の通り制限いたします：会話をしながらの利用は禁止。大テーブルの予約受付を停止。 	↓
1	制限-小	<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館、柏図書館の開館時間を短縮し、閲覧席の使用禁止などサービスを縮小する。 ・各課の判断で、可能な業務は在宅勤務とし、在宅勤務拡大への準備を行う。 ・情報サービス課は1/2の人員で交替勤務を想定。 ・財務会計業務を最優先。 	(3/27告知) <ul style="list-style-type: none"> ・開館時間を9:00～17:00に短縮します。 ・別館ライブラリープラザは当面の間閉室いたします。 ・本学に在籍中以外の方は入館できません。 ・本学に在籍中の方も、書庫へは入庫できません。資料は職員が出納いたしますので、総合カウンターでお申し出ください。 ・閲覧席はご利用できません。 ・資料の貸出・返却、予約資料の受取のみご利用いただけます。 ・資料の複写は可能ですが、長時間の利用はご遠慮いただき、最小限でお願いいたします。 ・MyOPACを通じての複写サービス及び資料取り寄せサービスは受け付けております。（詳しくはご所属の図書館・室にお問い合わせください。） ・ECCS端末はご利用できません。 ・貴重書、マイクロ資料はご利用できません。 ・卒業生入館証等、本学に在籍中以外の方の利用登録・更新はできません。 ・貸出中の図書の返却期限について柔軟に対応します。 	↓
2	制限-中	<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館を原則休館とし、提供するサービスは本学教員に対する講義に必要な資料の貸出・複写に限る。 ・各課の判断で、在宅業務を拡大する。 ・交替勤務で継続する業務：給与関連、共済関連、重要度の高い財務会計処理、新着雑誌のチェックインと配架。 ・情報サービス課は1/4の人員で交替勤務を想定。 ・柏図書館は完全休館とし、在宅で可能な業務のみ継続する。 	(予定) <ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館を原則休館とします。 ・本学教員に対しては、講義に必要な資料に限り、前日までにWebフォームで申し込みをいただければ、貸出・複写が可能な対応をいたします。（詳しくは総合図書館ホームページでご案内します。） ・貸出中の図書の期間延長対応を一括して行います。 	↓
3	制限-大	<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館、柏図書館ともに完全休館とする。 ・外国雑誌の支払い等、規模の大きい財務会計業務は可能な範囲で継続する。 ・総合図書館の改修工事が継続する場合は必要な職員のみ交替で出勤する。 	(予定) <ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館を完全休館とします。 ・電子ジャーナル等のオンラインサービスは継続します。 	↓
4	活動の停止	<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館、柏図書館ともに完全休館とし、在宅で可能な業務のみ継続する。 ・電子ジャーナル等のオンラインサービスは継続。 	(予定) <ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館を完全休館とします。 ・電子ジャーナル等のオンラインサービスは継続します。 	↓

緊急事態宣言

東大図書館の現状と課題

- 現在は、全学の行動指針（活動の制限）に基づき、図書館職員もリアル所蔵資料にアクセスできないため、提供できるのはオンラインサービスのみ
- オンラインサービスの中では電子ブックの充実が急務
- 一方、オンラインだけで現在の図書館サービスを全て代替することはできない
- 「活動の制限」が緩和された場合に向けて、所蔵資料の提供を再開する方策を検討中



以上は個人の見解です（江川）

egawa.kazuko@mail.u-tokyo.ac.jp